



INNOVATOR'S
GARAGE

2022

Z世代
ナゴヤ未来会議



INNOVATOR'S
GARAGE

REPORT

NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE

一般社団法人中部圏イノベーション推進機構

■ 目次

1. 企画概要
2. 議事概要
3. イノベーターズガレージ運営委員会・
中部経済連合会イノベーション委員会への報告
4. 今後の方向性

1. 企画概要

■ 調査目的

- ① Z世代が持っている未来や社会に対する感覚、本音・考えや思いを発掘する
- ② 参加者が様々な社会課題について自分事として考え、行動に移すきっかけとする
- ③ 大人社会とZ世代が共に未来に向けてすべきことを考え、そのヒントを共有する

■ 調査期間・方法

期間: 2022年10月7日、14日、21日

対象: 15~27歳迄の学生・社会人 延べ258名

方法: イベント開催中のアンケート、意見投稿フォーム(LiveQ)、意見交換による情報収集

■ 調査概要

Day1「本音発掘」、Day2「SDGs」、Day3「イノベーション」の各領域において意見を収集し、イベント企画時の仮説を検証しZ世代の考え・感覚等を考察

Z世代 ナゴヤ未来会議



INNOVATOR'S
GARAGE

大人たちに言いたい!

私達だけの
イノベーション!

就職戦線異常アリ!

詳細・お申込みは
こちら >



どうするSDGs!

学生
集合!!!

これからの
ネット・SNSとは!

日時 2022/10/7(金)・14(金)・21(金)
18:00~20:00 (全3日間)

総合MC
野田つばさ
(声優・ラジオDJ)



対象 : 18~25歳 **参加費** : 無料 **定員** : 100名
会場 30名 オンライン70名

会場 : ナゴヤイノベーションズガレージ
& オンライン配信
名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパーク4F



3日間参加した方に
豪華プレゼント!

ガレージAnnex
利用権 ドーンと
2024年3月まで



お問い合わせ先



INNOVATOR'S
GARAGE

一般社団法人中部圏イノベーション推進機構

Web <https://garage-nagoya.or.jp>
E-mail info@garage-nagoya.or.jp



※新型コロナウイルス感染防止のため、本プログラムは定員を減らし、
距離の確保、換気、消毒等の感染対策を行い開催します

Z世代 ナゴヤ未来会議



INNOVATOR'S
GARAGE

とりま3日間参加してみ！？
オン・オフで話そ！



YES
NO

みんなの本音
スマホで教えて！（匿名OK）

総合MC 野田つばさ

TVアニメ「シキザクラ」での声優や
ZIP-FM最年少ナビゲーターなど
マルチタレントを目指し活動中



DAY1
10/7(金)

Z世代で日本の今と
未来を語ろう

株式会社SHIBUYA109エンタテインメント
マーケティング戦略事業部
SHIBUYA109lab. 所長
長田麻衣 (おさだ・まい)

総合マーケティング会社にて、主に化粧品・食品・玩具メーカーの
商品開発・ブランディング・ターゲット設定のための調査やPRサポ
ートを経て、2017年に株式会社SHIBUYA109 エンタテインメントに
入社。SHIBUYA109 マーケティング担当としてマーケティング部の
立ち上げを行い、2018年5月に若者研究機関「SHIBUYA109
lab.」を設立。現在は毎月200人のaround 20（15歳〜24歳の男
女）と接する毎日過ごしている。織研新聞連載「SHIBUYA109
lab. 所長の＃これ知ってないとやばみ」、宣伝会議等でのセミナー
登壇・TBS『ひるおび！』コメンテーター・その他メディア寄稿・
掲載多数



Z世代
専門家！

大人たちに言いたい！



FabCafe nagoya
コミュニティマネージャー
高藤 健太郎



株式会社VMK
代表取締役
田中 優大



旭丘高校
女子高生
稲垣 桃

DAY2
10/14(金)

SDGsを語ろう

株式会社笑下村塾 代表取締役
相川美菜子 (あいかわ・みなこ)

1993年東京都生まれ。慶應義塾大学環境情報学部を総代(いわゆる
首席)で卒業。大学時代に内閣官庁で首相官邸のwebサイトをわ
かりやすく改善するプロジェクトに参加したことをきっかけに、
政治や社会問題を伝えることに関心を持ち、若者の政治に対する
声を伝えるメディア「政治美人」を個人プロジェクトとして開
始。その活動の一環で、大学の同級生だったかまつまなと出会
う。新卒ではリクルート住まいカンパニーにて雑誌編集やウェブ
サイト企画を経験。笑下村塾代表就任後、2019年6月のリクル
ート退職までの10ヶ月間は「副業社長」として働く。現在は経営お
よびSDGs発信のための教材作りやメディア出演に従事。



Z世代と
世直し！

どうするSDGs！



南山大学
SDGs普及啓発団体
CLOVER
会長
本田 光



名古屋国際高校
SDGs未来倶楽部
Sus-Teen!
部長
水谷 瞳来

DAY3
10/21(金)

イノベーションで
社会課題を解決しよう

一般社団法人SWITCH 代表理事
佐座マナ (さざ・まな)

1995年生まれ。カナダUBC大学卒業後、英UCL大学院
サステナブル開発専攻に進学。
140カ国の若者専門家が各国リーダーに気候変動対策の
提言を行う「Mock COP26」のグローバルアンバサダ
ー。2021年1月 一般社団法人SWITCHを設立し代表理事
に就任。国連COP26日本ユース代表。



Z世代の
声を届ける

私達だけの
イノベーション！



株式会社TOWING
CTO
西田 亮也

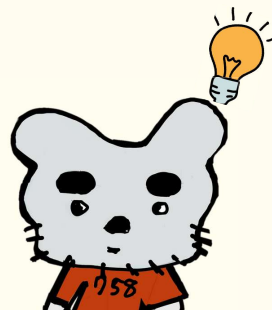


名大起業部
部長
鬼頭 奈瑠美

一般社団法人中部圏イノベーション推進機構の

イベント詳細は
WEBで

Search ナゴサイノベーターズガレージ



2. 議事概要

Day 1 日本の今と未来を本音で語る

(参加者:会場 41名 オンライン 59名)

SNS ネイティブである Z 世代の日常、社会 (将来) への課題感をふまえ、コミュニティの在り方を語る

●情報収集

新聞を全く見ない (n=53)

67%

- ✓ ネット上の情報は「取りに行く」より「浴びている」
- ✓ ほしい情報をほしい形で「効率的に見れるツール」を使い分け
- ✓ ネット・マスメディア情報の信ぴょう性は全般的に「低い」
- ✓ 「井戸端会議」はわりと有効な手段
- ✓ 本当に正しい情報がほしければ「現場に足を運ぶ」しかない

●仕事観

起業したい (n=52)

27%

- ✓ 正社員として就職:42%、働きたくない:13%
- ✓ 仕事選びで重要視するのは「仕事内容」と「給料」
- ✓ 将来「やりたいこと」をじっくり考えてから就職したい
- ✓ 夢がなくてもまずやりたいことを「積み上げて」いけばいい
- ✓ 就職活動に関する参加者の違和感や不満が爆発!

●結婚観

結婚したい (n=47)

68%

- ✓ 親世代からの押し付けなど「周囲の目」は気になる
- ✓ 結婚や仕事など決め手は結局「自分の納得感」だと思う
- ✓ 一人だけの給料で生活できる気がしない
- ✓ 一人で死にたくない
- ✓ 損得勘定で決めるのは嫌だなあ

●自分の経済環境

5年後 10年後、良くなっていると思う (n=52)

56%

- ✓ コロナを経験し、先のことは「どうなってるかわからない」
- ✓ 学業にかける時間とパワーが仕事に向けば「良くなるはず」
- ✓ 超高齢化社会で働いても「税金で持ってかれる」気がする
- ✓ 「経済関係が良くなる」のと「生活が良くなる」のは違うと思う
- ✓ 「自己実現」と「経済活動」が紐づけば個々人の幸福度は上がる

●コミュニティ

- ✓ リアルとネットの境目がなくなっている
- ✓ ネットが入口だと年齢が違って「共通の趣味」でつながれる
- ✓ オンオフ関係なく「信頼関係」ができることが大事だと思う
- ✓ 簡単に人と繋がれるわりに孤独感を感じる人が多い時代
- ✓ ネットだからこそ見せられる自分もある

●就活

- ✓ 就職は自分の将来の目標を達成するための手段なので、周りの流れに無理に合わせて就活したくない
- ✓ 企業にとっても「素を見る」ことが大事だと思うのに、本当の自分を見て貰える気がしない
- ✓ 長期インターンの多さで東京とは情報や経験の格差を感じる
- ✓ みんな同じスーツ着て、どの会社にも「第一志望です」と言わなければいけないのはおかしい
- ✓ 新卒ってそんなに大事ですか?

Day 1 まとめ

- 自分にとって有用なものは、ネット/リアル関係なく (SNS・井戸端会議) 大切
- 正解は別に求めない、常にいくつかの選択肢に囲まれた状態で無理に一つに絞らない
- 偶発的な状況に慣れ、比較的受け入れやすく、柔軟に考える
- 目標・目的が無くても、その時の興味や「いいな」という感覚で行動できる
- お金も大事だが、その他 (仲間、SNS 上の評価、趣味、わくわく感等) の価値も大事
- 物のよし悪しは表裏一体のため、あくまで「自分の納得感」を基準に幸福感を求める
- 他者の目や周囲の環境に自分を適合させることには違和感をおぼえがち
- 旧態依然とした現状に合わせるより、自分に合った新しいものを生み出した
- 国や地域の未来を背負ってるつもりはなく、あくまで自分にとってよりよい社会を創りたい
- 自己実現=将来設計=経済活動 (=社会課題解決?)



Day2 SDGsで社会課題に向き合う

(参加者:会場 29名 オンライン 55名)

身近な事例、世界の動きとの比較など様々な観点からSDGsを語り、自分事として課題に向き合う

●SDGsへの意識

日頃意識しているか (n=18)

50%

- ✓ 「SDGsロゴ」を街中の様々な場所でみる
- ✓ マイボトル、マイバッグなど「MYシリーズ」に愛着がわく
- ✓ サステナブル、ダイバーシティなど「カタカナ語が多すぎる」
- ✓ 日本では「SDGs=環境問題」だと思われがち
- ✓ 海外まで「意識」を広げるべき

●環境

取り組み・効果は

懐疑的

- ✓ 「SDGs バッジ」をつけただけなど、“やっている感”はイヤ。
- ✓ 中部はトヨタがあるので自動車業界ががんばっている
- ✓ 中部に住んでいてもSDGsの「環境以外の取り組み」を知らない
- ✓ 日本と海外では立場や「本気度」が違う
- ✓ 日本では経営層の認知に留まっている

●SDGsの実行

迷いがある

- ✓ SDGsは「価値観」の共有に近い
- ✓ 小さなことが積み重なって目に見える成果になる
- ✓ 影響力のある「リーダー」を求めている
- ✓ 日本では学生が何か「変えよう」としても卒業まで結論が出ない
- ✓ 日本と欧米は「教育」が違う。欧米はアクションを取る場数が多い
- ✓ 我慢ではなく「持続」させるために「お金」を使いたい

●やりたいと思う行動

思いやアイデア

ある

- ✓ 「個人でできるSDGs」があまり広まっていない
- ✓ 持続可能な「経済発展」をしたい
- ✓ メリットを「発信」していきたい
- ✓ 「共感」によって、仲間を増やして行動したい
- ✓ 生活の中で「SDGsが当たり前」になってきている世代

●17目標で重要視

1位 (n=31)

質の高い教育を

- ✓ 中部の学生は教育に関心がある一方、経験談として不満を抱える
- ✓ 置かれる環境(地域や年齢)によって重視するゴールが異なる
- ✓ 経験に基づいて、達成したいという真剣さが変わる
- ✓ 複数項目が連鎖している。一緒に解決できるものもあれば後退するものもある。デメリットも考えたい

●17目標で関心があるもの

1位 (同列) (n=23)

働きがい まちづくり つくる責任

- ✓ 安物買いしてしまうことで結果として業界の衰退の危機に繋がる
- ✓ 世の中で起きていることは本当か確かめる必要がある
- ✓ 現場を自分の目で見たい
- ✓ 愛着のある土地を未来の子どものために発展させたい
- ✓ 問題の当事者だからこそできることもある

●アイデア

できること
から一つ
ずつ

- ✓ 環境に良いブランドが高くて買えなくても、悪いブランドは買わない
- ✓ 地球によって良いことと人にとって良いことはイコールじゃない
- ✓ SDGs を実現するための規制と罰則が必要
- ✓ 色々な人がいるという認識を持ち、意見を聞くことが大事
- ✓ 日々の行動を SDGs と気づかせて、当事者意識を高める

●SDGsについて正直に思うこと

- ✓ 地球にとって良いことと、人間にとって良いことはイコールじゃないので難しい
- ✓ SDGs を押し付けのように感じてしまう、ジェンダーは受け入れないと悪者にされる
- ✓ 異常気象=地球温暖化は正しいのか
- ✓ 「自分のため」と「地球すべてのため」が共存しているのが違和感。
- ✓ SDGs を達成すると幸せになれるのか？過激派のせいでイメージが悪い

●企業にやってほしいこと、変えてほしいこと正直に思うこと

- ✓ 今は企業の活動を SDGs の項目に当てはめているが、世の中のためになるなら項目に縛られすぎなくていいのに
- ✓ 企業は利益の最大化ではなく、お金がかかっても素材を変え、国産へ移行し、値上げするような方向転換を
- ✓ 環境に良い活動だけが SDGs になっているから、8番や9番をもっとアピールすればよい
- ✓ 学校現場においても無理に個人に落とし込もうとするので、授業外の活動に繋がっていない

Day2 まとめ

- SDGs を約半数が自分ゴトとして意識している。また、意識せず行動できている
- SDGs バッジやレジ袋、割りばしなどの取り組みは効果に疑問
- 企業の「やっている感」と、SDGs=環境に偏っているところは不思議に思っている
- EV=エコといった世間の風潮に流されず、真実を見極めようとしている
- 重要視している項目は環境関係が低い、日頃行動している取り組みは環境関係が多い
- 社会問題に対しても、SNS 上の投稿や動画で情報を拾っている
- 学生時代から個性を大切にしている。学校という閉鎖的なコミュニティだけでなく、オンラインを通じて、国内外の様々な人を知って繋がり、多様な価値観を大切にしている
- SDGs について疑問をもっていた人も、会議の最後には自分ゴトとして考えていた
- 「次は、Z 世代だけでなく世代別の会議をしてもいいのでは」という提案もあった



Day3 イノベーションを考える

(参加者:会場 29名 オンライン 45名)

中部圏 Z 世代が社会課題にアプローチしていくマインドや行動について、先輩イノベーターと語り合う

●将来の拠点

中部圏に残る

半数
くらい

- ✓ 中部圏とそうでない場所の希望が半々程度の様子
- ✓ 東京や大阪のほか、海外を意識している人も多い
- ✓ 情報の集まりやすさや起業しやすさを考えている人は東京や大阪を意識
- ✓ 中部圏ならではの魅力を活用したいという意識もある

●地元大手自動車系

魅力を感じる (n=19)

37%

- ✓ 魅力を感じない:37%、どちらともいえない:26%
- ✓ 魅力を感じる点は「ネームバリュー」、「福利厚生」、「永年勤続」
- ✓ 車がどうというよりやりたいことができるかが重要
- ✓ 親が酷使されている姿を見て良い印象がない

●中部圏のイノベーション

起きると思う (n=26)

69%

- ✓ 動きは遅いがポテンシャルはある
- ✓ 危機感のある企業が多いので何とかすると思う
- ✓ 立地的特徴や技術力や中小企業の数など強みはある
- ✓ 閉鎖的・保守的な意識や、そうだという自らのレッテルは弱み
- ✓ グローバルや工学など特徴ある大学が多く、土壌はある

●イノベーションのための行動

起こしてみたい (n=31)

77%

- ✓ 周囲のやる気を起こすため、自身が率先して動くよう心掛けている
- ✓ 沢山の人と交流し、協力者を増やすよう環境構築したい
- ✓ 『同調圧力』と『自分一人の力しかない』という閉塞感が障壁
- ✓ 理解はしても協力はなかなかしてもらえない
- ✓ まだそこまで熱くなれるものがない。結局怠惰な方が楽。

●企業や社会への思い

- ✓ ハンコ主義や書面主義のような無駄を省いてほしい
- ✓ 1回褒めてほしい。みんなで褒め合いたい。
- ✓ 話も聞かずにとりあえず反発する姿勢をやめてほしい
- ✓ 顧客と同じくらい人材を大切に、人に対してお金を出して
- ✓ 若い世代とベテラン層が交流し、理解し合える環境が良い
- ✓ 「3年で辞めてしまう」と思わず、人財が育っていく環境にしたい

●教育

- ✓ 同調圧力に弱い文化が、誰かに批判されるのが怖くて発言や行動の妨げになっている。教育の変化が重要。
- ✓ 名刺交換の授業が気持ち悪かった。女性はこの角度で足を開くとか、敬語や席順以上の不要なルール
- ✓ 若者の行動を促し、サポートする、自己肯定感を促す(環境)教育がこれまでできていなかった
- ✓ エドノミーから繋がる、教育しなくても環境配慮した循環型社会があったためにアップデートされなかった

Day3 まとめ

- 地元に関心がある人も一定数いるが、地元企業ばかりを目指しているわけではない
- 大手企業の魅力も感じるがそれしか見えていないわけではない
- イノベーションに興味がないわけではなく、自身や周囲の幸せのためにできるなら何かしたい
- 中部圏社会は保守的かもしれないが、自分たちが保守的とはそれほど思っていない
- 自信や自己肯定感が低く、周囲の空気には押し負けがち（という意識がある）
- 若者の声を聴いてほしい、若者の力を活用してほしい
- とりあえず否定する前に話を聞いてほしい、褒めてほしい（日本社会は褒めが下手）



全体を通して

- 100人の学生の参加を目指したが、最も多かったDay1でも100人ちょうどの参加となり、Day2、Day3では100人に満たなかった。大学の教授等も通して多くの学生に広報したが、こういった内容や取り組みに対する興味関心の薄さを実感した。
- Z世代は自己肯定感が低いなど、ネガティブキャンペーンを勝手に押し付けないでほしいといった趣旨の意見など、Z世代が大人社会と同じく漠然とした不安感や危機感に疲れていると感じられた。
- 一方で具体的なイノベーションプランや自主的な課題解決案や行動は出てこないなど、その不安や課題を自分の物として腹に落とし、解決に向けて考えや行動を持っている人は非常に少数であると感じられた。
- この地域は外に出ない人が多いと言われているが、この会議に参加するような意識のある若者のうち約半数が、今後の拠点を関東や関西に移すことを考えている。

イノベーターズガレージ運営委員会・ 中部経済連合会イノベーション委員会への報告

11月30日 イノベーターズガレージ運営委員会
起業者、企業役員、大学教授、行政等からなる
運営委員16名による会議体

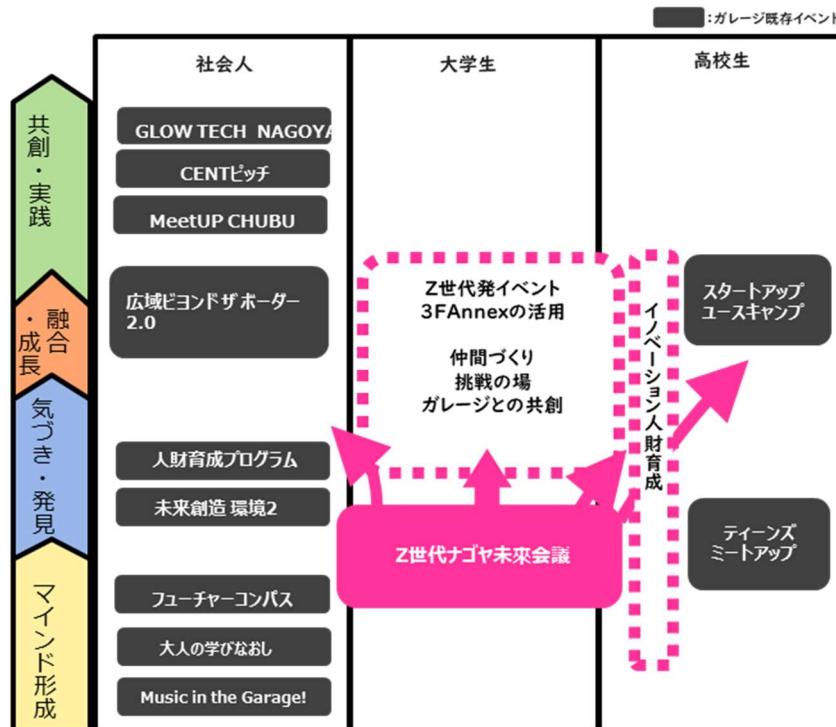
1月12日 中部経済連合会イノベーション委員会
中経連副会長はじめ専務、常務等役員、
及び中経連所属企業からなる会議体



中部圏企業の上層部にZ世代の思い・考えを提言!

今後の方向性

ガレージにおけるZ世代の活動の場の強化
ガレージプログラムにZ世代イベントを位置づけ



- ✓ 引き続きZ世代からの問題意識や課題提言の機会、Z世代に対する啓発として対話を実施
- ✓ ガレージイベントに参加するだけでなく、課題を解決するためZ世代自身の企画をサポートするなど、AnnexをZ世代の仲間づくり・挑戦の場として活用
- ✓ ワークショップや交流会を開催し、イノベーション人財の育成やコミュニティ作りを実施